



題 字	
宮城県知事	村 井 嘉 浩
発 行 所	
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号	
一般社団法人 宮城県畜産協会	
電話 022-298-8473	
編 集 発 行 人	
菅 原 章 夫	
印 刷 所	
(株)東北プリント	



「みやぎモーモーママちゃんの集い」(平成25年 3月22日(金) 茂庭荘)

も く じ

C O N T E N T S

一般社団法人 宮城県畜産協会の発足について…………… 2	〈衛生便り〉口蹄疫の防疫対策について…………… 10
平成25年度畜産施策の基本方針と主要施策…………… 3-5	〈農業大学校生の抱負〉将来の目標…………… 10
平成25年度酪農・畜産物政策価格及び経営安定対策が 決定しました…………… 6	〈人の動き〉…………… 11-12
みやぎモーモーママちゃんの集い開催報告…………… 7	
平成25年度宮城県総合畜産共進会 開催のお知らせ………… 8	
〈畜試便り〉「しもふりレッド」の現状と豚肉販売促進の 取り組みについて…………… 9	



みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

Eメール info@mygchiku.or.jp



古紙パルプ配合率 70%の再生紙と、
植物性大豆油インキを使用しています。

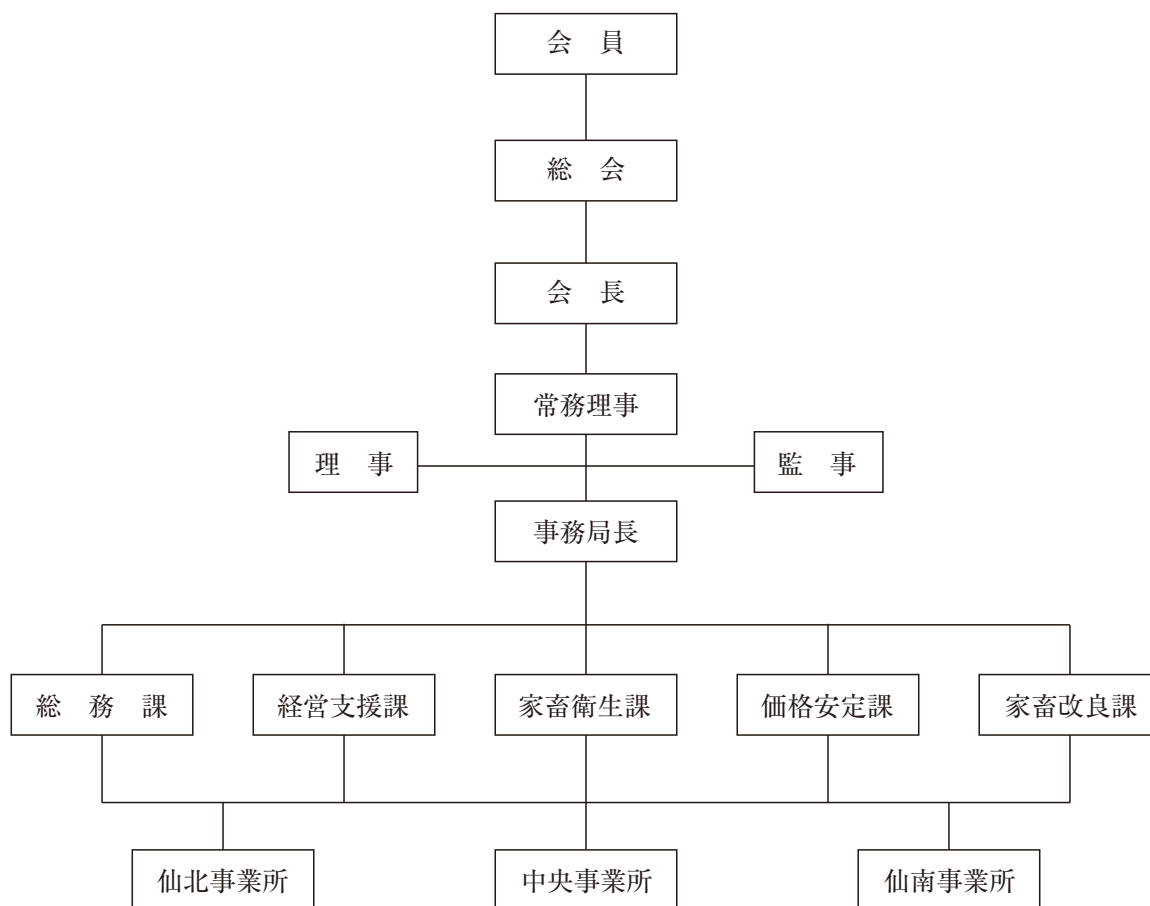
一般社団法人宮城県畜産協会の発足について

平成20年12月の新公益法人制度の施行に伴い、本会も種々検討を重ね、本年4月1日をもって社団法人から一般社団法人宮城県畜産協会へ移行しました。

本協会の前身であります社団法人宮城県畜産協会は、平成13年4月に県内畜産関係団体5団体（社団法人宮城県畜産会・宮城県養豚協会・社団法人宮城県生乳検査協会・社団法人宮城県家畜畜産物衛生指導協会・社団法人宮城県肉用牛価格安定基金協会）が再編統合を目的とし合併してから、平成25年3月までの12年間、本県の畜産経営の安定的発展と畜産の振興に寄与してまいりました。

今後とも、当協会は畜産業を営む者の経営及び畜産業を営む者が組織する団体の運営に対する指導、家畜の飼養管理、種畜の改良、畜産に関する技術的な支援、知識の普及、家畜及び畜産物の価格安定対策、肉用子牛生産者補給金の交付、肉用肥育牛補てん金の交付、自衛防疫の推進及び家畜死体の適切な流通並びに生乳の品質改善指導により、畜産経営の安定的発展と畜産の振興に寄与し、もって国民への安全で安心な畜産物を安定的に提供することを目的に一層努力していく所存ですのでよろしくお願いいたします。

なお、本会の組織体制は下記のとおりです。【平成25年4月】



平成25年度畜産施策の基本方針と主要施策

宮城県農林水産部

I 基本方針

本県の畜産は、農業産出額の38.1%を占め、農業の主要部門として成長するとともに、安全で良質な畜産物を消費者に安定的に供給する畜産主産県としての位置を確立しています。

しかし、世界的な異常気象による穀物の需給不安に加え、飼料価格や原油価格など生産資材価格の高騰が大幅な生産コストの上昇を招いている上、景気低迷による畜産物の消費減少や価格低迷により経営が悪化しております。

さらに、平成23年 3 月に発生した東日本大震災は、地震及び津波被害として県内の畜産関連施設等に約50億円の被害を及ぼしました。加えて、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の飛散は、本県畜産業へも甚大な被害を加え、経営全体への生産性の低下や畜産物の安全性への信頼が揺らいでおります。

このため、一日も早い畜産業の復興と経営体質の強化を目指して、国、市町村、畜産関係団体との連携を一層強化し、富県戦略の一翼を担う産業として、良質で安全・安心な畜産物の安定供給に向け、次の重点項目を掲げ畜産施策を展開します。

また、第11回全国和牛能力共進会宮城大会を平成29年に本県で開催することから今年度は実行委員会事務局等を中心に各種の取組を進めてまいります。

- ・畜産復興に向けた生産基盤の整備
- ・収益性の高い畜産経営の実現
- ・原発事故による影響への対応
- ・活力ある農村の復興

II 主要施策

【1 畜産復興に向けた生産基盤の整備】

畜産生産基盤の早期復旧や畜産経営再開に向けた支援、畜産生産体制の整備、復興に係る事業を展開し、震災からの畜産の生産力回復や災害に強い畜産体制づくりを推進し、畜産生産基盤の早期復旧と復興を図ります。

○畜舎等施設整備支援対策事業

震災により畜舎の流出等生産基盤に被害を受けた畜産農家の経営再建、生産回復に必要な畜舎等の整備、改修を支援し、経営の安定化を図ります。

○みやぎの繁殖雌牛保留推進復興支援事業

肉用子牛生産基盤を復興させるため、「茂洋」号をはじめとした本県基幹種雄牛産子の優良子牛の県内保留を支援し、増頭を促進するとともに強い畜産経営体づくりを推進する。

【2 収益性の高い畜産経営の実現】

収益性の高い畜産経営の実現や活力ある畜産の振興のため、実需者を意識した畜産物の生産体制や「仙台牛」に代表される“みやぎ”の畜産物ブランドの再生、家畜改良による生産性の向上や畜産新技術の開発普及を推進するとともに、新たな時代の畜産業の構築を図ります。

(1) 収益性の高い肉用牛経営の実現

「茂洋」号に続く優良な種雄牛の造成、産肉や繁殖能力の高い雌牛群の育成、受精卵移植の実用化、肉用子牛価格の安定、畜産経営技術の高度化や試験研究成果の実証を展開し、収益性の高い肉用牛経営の実現を図ります。

○肉用牛集団育種推進事業

優れた種雄牛の造成と能力の高い繁殖雌牛群整備のため、肉用牛改良データベースによる適切な交配指導とともに、「家畜導入事業」により優良産子を保留し、高品質のブランド牛肉「仙台牛」と「仙台黒毛和牛」の産地化を推進します。

○肉用牛価格安定対策事業

肉用牛農家の価格補償制度への加入促進や経営指導により、肉用牛経営の安定化を図ります。

○第11回全共宮城大会推進事業

平成24年7月に宮城県、市町村、JA、各畜産関係団体の81団体を会員とする第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会が設立され、平成29年宮城県開催の第11回全国和牛能力共進会を行うため、開催に必要な諸準備を行うとともに円滑な運営に必要な各種事業を展開します。

(2) 活力ある畜産の復興

乳用牛の生産能力を高めるための牛群検定の普及、指導強化やゆとりある酪農経営実現のためのヘルパー事業への支援及び宮城県独自の優良種豚の選抜普及、輸入飼料高騰対策としての自給粗飼料の生産推進や家畜生産性向上等の事業を展開し、畜産経営の復興を推進します。

○乳用牛群検定指導強化事業

乳用牛群検定指導員を対象とした研修会を開催し、効果的な検定実施体制の整備を図ります。

○酪農ヘルパー事業運営強化対策事業

酪農ヘルパーの利用を促進し、ゆとりある持続性の高い酪農経営の実現を図ります。

○優良種豚選抜推進事業

雄型系統豚「しもふりレッド」と雌型系統豚「ミヤギノL2」の維持、増殖を図り、養豚農家への種豚供給体制を確立し、養豚農家経営の安定化を図ります。

○飼料価格高騰対策支援事業

輸入飼料価格高騰への対応として、稲ホールクロップサイレージの専用品種の普及や家畜の生産性向上のための取組を支援するとともに未利用資源の飼料化を推進します。

(3) 安全な畜産物の生産支援

BSEや高病原性鳥インフルエンザをはじめとする家畜伝染性疾患の発生予防とまん延を防止するため、各種衛生検査や飼養衛生管理の指導を行い、健康な家畜の生産及び安全な畜産物の安定的な供給のための事業を推進します。

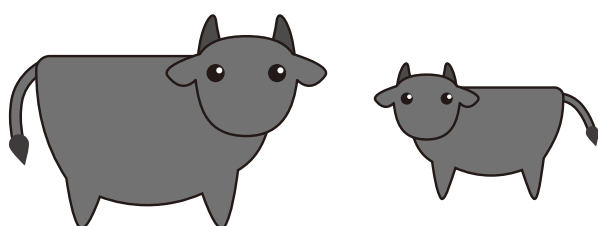
また、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づく飼料製造工場や販売店への立入検査を実施するとともに、動物用医薬品の取締指導を行い、適正な利用を推進します。

○家畜伝染病予防事業

BSEや高病原性鳥インフルエンザをはじめ、牛・豚・鶏・馬・みつばち等の各種伝染性疾患の検査及びこれに関連する防疫対策を行い、家畜伝染病の発生予防とまん延防止を図ります。

(4) 畜産新技術の開発・普及

畜産分野における試験研究環境を整備し、国内外の産地との競争力強化や自給飼料確保による生産性向上や新たな畜産技術の開発と普及を推進します。



○県単独試験研究費

本県の特徴を活かした畜産物の生産性向上と高品質化のための手法として牛の受精卵移植技術の活用や育種素材の遺伝子解析技術の開発に取り組みます。

○受託試験研究費

国との連携により、各畜種の生産性向上、家畜ふん尿の効率的な処理、飼料作物の増収技術等、新技術の研究開発を推進します。

【3 活力ある農村の復興】

被災により低下した農業生産力の回復を図るため、生産基盤や畜産関連施設の整備を行い、地域の核となる畜産経営体を育成し、活力ある農村の復興を図ります。

○畜産基盤再編総合整備事業

飼料生産体系の確立、飼料自給率の向上等を図るため、飼料基盤の整備や畜産関連施設の整備を行います。

【4 原発事故による影響への対応】

原発事故による県内畜産物への放射性物質の影響を把握し、汚染物の処理や草地土壌等の反転耕等、給与自粛牧草等の管理指導、牛肉の出荷円滑化などこれらの影響に対応するための事業を展開し、生産者も消費者も安心できる生産体制の構築を図ります。

○放射性物質影響調査事業

原発事故に起因する畜産物等の放射性物質を測定し、消費者への健康への影響を未然に防ぐとともに、放射能の影響を低減するための飼料の栽培管理等の指導を行います。

○給与自粛牧草等処理円滑化事業

放射性物質に汚染され使用できず、畜産農家から一時保管施設へ移動した稲わらや保管施設について、周辺への影響を防止するため最終処分が完了するまで適切に維持管理を行います。

○草地土壌放射性物質低減対策事業

放射性物質に汚染され暫定許容値を超える牧草が生産された地域において、土壌放射性物質低減を図り、牧草への影響を低減するための草地の反転耕等の取組を推進いたします。

○肉用牛出荷円滑化推進事業

本県産牛肉の安全性を確保するため、関係機関と連携し、出荷調整を行いながら、出荷前の生体での放射線量測定やと畜される全ての県産牛について、放射性物質を測定し安全性を確認し流通させるとともに、出荷が滞留している廃用牛の集中管理を支援し、肉用牛の円滑な出荷を推進いたします。

(畜産課企画管理班 曾根文浩)

「平成25年度酪農・畜産物政策価格及び経営安定対策が決定しました」

宮城県農林水産部畜産課

農林水産省は1月25日に平成25年度の酪農・畜産物政策価格を決定しました。また経営安定関連対策も1月に決定しており、畜種ごとの特性に応じた経営の安定を支援する対策が措置されました。

1. 酪農関係対策

加工原料乳生産者補給金の単価は前年度から35銭引き上げられ、12.55円/kgとなりました。補給金の対象になる限度数量は181万トンで前年度から2万トン減少しました。

関連対策では、平成23年度から拡充された、「チーズ向け生乳供給安定対策事業」が平成25年度も実施されます。この対策は、加工原料乳よりも乳価の低いチーズ向け生乳を対象に、指定生乳生産者団体を通じて生産者に対し、供給量に応じて一律の助成金として交付するものです。助成単価は15.1円/kgに設定されています。

また、加工原料乳価格が需給変動により低落した場合に、生産者の拠出と国の助成金とによる生産者積立金によりその一定部分を補てんする「加工原料乳生産者経営安定対策事業」が引き続き実施されます。同制度の対象はこれまでバターと脱脂粉乳などに向ける加工原料乳だけでしたが、平成23年度からチーズ向け生乳も対象となっています。チーズ向けの補てん額は、バターなどと同じく基準価格の8割となります。基準価格は、過去3ヶ年の平均取引価格となります。

2. 肉用牛関係対策

平成25年度においても引き続き「肉用牛肥育経営安定対策事業」が実施され、四半期ごとの肥育牛1頭当たりの粗収益（全国平均）が生産費（全国平均）を下回った場合に、基準価格の8割が補てん金として生産者に交付されます。平成23年度からは従来からの各県畜産協会を窓口として実施する方法に加え、農畜産業振興機構から生産者への直接交付の仕組みが追加されています。

また、肉用子牛生産者補給金制度を補完する対策として、「肉用牛繁殖経営支援事業」が引き続き実施されます。仕組みは平成23年度と同様に経営費と家族労働費（8割分）を足したものを発動基準に設定し、肉用子牛価格（全国平均）が発動基準を下回った場合、差額の3/4が四半期ごとに補てんされます。発動基準は品種ごとに異なり、黒毛和種41万円、褐毛和種37万円、その他の肉専用種27万円となります。

3. 養豚関係対策

22年度から全国一律のシンプルな仕組みに見直された、「養豚経営安定対策事業」が25年度も実施されます。仕組みは、豚枝肉価格が生産コストに相当する保証基準価格を下回った場合に、その差額の8割が交付されます。23年度からは、県域団体（畜産物価格安定基金協会）の関与がなくなり、農畜産業振興機構から生産者への直接交付方式一本となっております。

4. 採卵養鶏関係対策

従来からの鶏卵価格差補てん事業と22年度に実施された成鶏更新緊急支援事業を組み合わせた「鶏卵生産者経営安定対策事業」が25年度も実施されます。

この対策は、鶏卵価格が標準取引価格（月毎）を下回った場合、その差額の9割を補填するとともに、さらに季節変動を超えて大幅に下落した場合は、成鶏の更新に併せた長期（鶏卵の標準取引価格（日毎）が安定基準価格を下回った日の30日前から、安定基準価格以上となる日の前日までに、更新のために成鶏を出荷し、その後60日以上）の空舎期間を設ける取り組みに対して奨励金が交付されるものです。奨励金単価は、大規模生産者（10万羽以上）は150円/羽以内、中小規模生産者（10万羽未満）は200円/羽以内に設定されています。

1 加工原料乳生産者補給金単価及び限度数量

	平成25年度	対前年度増減
補給金単価	12.55円/kg	0.35
限度数量	181万トン	△2

2 指定食肉の安定価格（単位：円・kg）

		平成25年度	対前年度増減
牛	上位安定価格	1,070	10
	安定基準価格	825	10
豚	安定上位価格	550	5
	安定基準価格	405	5

3 指定肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格（単位：円/頭）

		平成25年度	対前年度増減
保証基準価格	黒毛和種	320,000	10,000
	褐毛和種	292,000	7,000
	その他の肉専用種	209,000	5,000
	乳用種	122,000	6,000
	交雑種	188,000	7,000
合理化目標価格	黒毛和種	273,000	5,000
	褐毛和種	251,000	4,000
	その他の肉専用種	144,000	2,000
	乳用種	86,000	3,000
	交雑種	142,000	4,000

(企画管理班 成田直人)

みやぎモーモーマーちゃんの集い開催報告

平成24年度畜産経営高度化促進事業（畜産経営者交流会）

一般社団法人 宮城県畜産協会

平成25年 3 月22日（金）、モーモーマーちゃんとしては初めての移動研修を行いました。視察先に昨年の夏に牛舎を新築した川崎町酪農経営（有）蔵王あぐりファーム（代表：小林郁恵）の見学を行いました。

小林さんは「女性に優しい牛舎」をコンセプトに設計したもので、牛舎内はいたる所に女性ならではの、重労働から解放される設備と工夫がなされ、参加した母ちゃんも「なるほど」と感心した様子でした。

恒例の交流会は、仙台市太白区の「茂庭荘」を会場に一分間スピーチを行った後、全農みやぎ 仙南事業所 三浦所長に「子牛導入で気をつけている点」と題し、ユーモアたっぷりにご講演をいただきました。

全国の動きとして、平成25年 7 月17日から宮崎県都城市を会場に「全国モーモーマーちゃんの集いINみやぎ」が開催され、本県からも14名の母ちゃんが参加する事となっていますので、その内容を本誌で報告したいと思います。

最後に、毎回感じるのですが「女性の力」「行動力」はすごい!!この力が宮城の畜産を根底から支えているのではと実感させられました。

（経営支援課）



▲ 移動研修会風景



▲ 交流会風景



▲ 交流会風景



▲ 交流会風景

NAR 地 方 競 馬 全 国 協 会

岩手競馬（盛岡・水沢開催）4・5月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
4月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火		
						水 沢							水 沢								水 沢											
5月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
					盛岡							盛岡							盛岡							盛岡						

※開催期間中の重賞レース

・4/6(土) 第38回岩手日報杯スプリングカップ ・4/27(土) 第38回赤松杯 ・4/29(月) 第13回留守杯日高賞 ・5/4(土) 第26回やまびこ賞
 ・5/12(日) 第38回シアンモア記念 ・5/19(日) 第18回はまなす賞 ・5/26(日) 第14回あすなろ賞

平成25年度宮城県総合畜産共進会 開催のお知らせ

一般社団法人 宮城県畜産協会

農林水産祭参加平成25年度宮城県総合畜産共進会を下記日程により開催いたしますこととなりましたので、多数ご来場下さいますようお願い申し上げます。

1 開催日時

- 1) 肉 豚の部 会 期：平成25年9月4日（水）～9月6日（金）
場 所：宮城県食肉流通公社（登米市）
枝肉展示及び褒賞授与……………一般参観（6日）午前10：30～
- 2) 肉用牛の部 会 期：平成25年9月13日（金）～平成25年9月14日（土）
場 所：みやぎ総合家畜市場（美里町）……………一般参観（14日）午前9：00～
- 3) 乳用牛の部 会 期：平成25年9月14日（土）
場 所：みやぎ総合家畜市場……………一般参観（14日）午前9：00～
（総合開会式・閉会式は9月14日となります）

2 出品予定頭数及び出品資格、生年月日範囲

1) 肉豚の部 …………… 75セット（150頭）

区 分	資 格	日 齢	生年月日範囲
第 1 区	ミヤギノクロスの三元交雑種 (LW・D)	180日以内	平成25年3月8日以降
第 2 区	第1区以外の肉豚	220日以内	平成25年1月27日以降

2) 肉用牛の部 …………… 39頭19組（64頭）述べ頭数103頭

出品区分	資 格 月 齢	備 考	生年月日範囲
第1区（若雌の1）	14ヵ月以上～17ヵ月未満	単 品	平成24年4月15日～平成24年7月14日
第2区（若雌の2）	17ヵ月以上～20ヵ月未満	〃	平成24年1月15日～平成24年4月14日
第3区（経産）	経産牛	〃	
第4区（繁殖雌牛群）	経産牛	4頭1組	
第5区（高等登録群）	14ヵ月以上	2頭1組	平成24年7月14日以前
第6区（父系群）	17ヵ月以上～24ヵ月未満	4頭1組	平成23年9月15日～平成24年4月14日

3) 乳用牛の部 …………… 98頭

区 分	資 格 月 齢	備 考	生年月日範囲
第 1 区	12ヵ月未満（後代検定娘牛）	未經産	平成24年9月14日以降
第 2 区	12ヵ月未満	〃	平成24年9月14日以降
第 3 区	12ヵ月以上～16ヵ月未満	〃	平成24年5月14日～平成24年9月13日
第 4 区	16ヵ月以上～20ヵ月未満	〃	平成24年1月14日～平成24年5月13日
第 5 区	20ヵ月以上～24ヵ月未満	〃	平成23年5月14日～平成23年9月13日
第 6 区	3才未満（後代検定娘牛）	経 産	平成22年9月14日以降
第 7 区	3才未満	〃	平成22年9月14日以降
第 8 区	3歳以上4才未満	〃	平成21年9月14日～平成22年9月13日
第 9 区	4歳以上5才未満	〃	平成20年9月14日～平成21年9月13日
第 10 区	5才以上	〃	平成20年9月13日以前

3 付帯行事

消費拡大イベント・畜産物、地場産品展示即売など

（経営支援課）

〈畜試便り〉

「しもふりレッド」の現状と豚肉販売促進の取り組みについて

宮城県畜産試験場

デュロック種系統豚「しもふりレッド」は「ミヤギノポーク」(LWD)の止め雄用として平成14年に完成しました。名前の由来のとおり「霜降り」で柔らかい肉質が特徴で、当场では種雄豚15頭・種雌豚55頭で維持・増殖しています。本豚は、主に交配用種雄豚(平成24年度24頭)や人工授精用精液(平成24年度6,201本)の配布が目的で系統造成されましたが、デュロック純粋種の豚肉が大変特徴的で美味しいことから、肉豚としても年間2,100頭程度が畜試・JAの各生産部会・JA全農みやぎ米山肥育豚集中管理センターなどでブランド豚として生産されています。精肉としては、(有)伊豆沼農産の「伊達の純粋赤豚」と全農みやぎの「しもふりレッド」として県内(生協・イオンを中心に29店舗)や県外(32店舗)・海外(香港そごう)で販売または食肉加工品の原材料として提供されています。

元来、デュロック種は、肉豚生産時の肉質向上を狙った止め雄として利用される雄系品種で、他の雌系品種に比べ泌乳能力や哺育能力が劣り安定的にまとまった数の肉豚を生産できない稀少品です。このため、流通の調整や販売については、宮城県や各流通業者で構成される「しもふりレッド流通部会」が中心になり出荷頭数や販売戦略についての調整を行っています。

昨年は「しもふりレッド」の消費拡大を目指したPR活動に力を入れ、平成24年10月13日に開催された「みやぎまるごとフェスティバル」で宮城県畜産協会が主催した試食会に協賛し、宮城県系統豚のPRを行いました。また、「のぼり」を作成しイベント等で使用しました。さらに、「しもふりレッド」の肉を用いたセット商品や飲食店での特別メニューの開発に役立てるため、(株)高砂長寿味噌本舗とともに本豚肉の風味に合った「つけだれ」の開発を行いました。

なお、宮城県養豚研究会では、他の県内2銘柄の豚肉と共に、日本女子大学家政学部調理学研究室に官能評価・各種分析を依頼し、その結果については、平成25年3月6日に開催した第2回研究集会で、「豚肉の美味しさを考えよう」というテーマの下に飯田文子准教授による講演が行われました。また会場では3銘柄の試食も実施し、県内ブランド肉のおいしさを実感するとともに、消費者が好む豚肉の風味について考える場を養豚農家や関係者に提供することができました。

昨年は、米国産地を襲った大干ばつによるトウモロコシ相場の高騰や、円高を背景とした輸入畜産物の流入による畜産物相場の低迷、夏場の酷暑など養豚を取り巻く現状は大変厳しい1年となりました。このような中であって、完成から今年で11年目を迎える「しもふりレッド」ですが、地元宮城県産の系統豚であり他のブランド豚や輸入豚との差別化が可能な豚肉として、養豚農家・流通関係者からの種雄豚・種雌豚や精液の配布依頼、肉豚出荷要請が、今後も継続すると思われます。

畜産試験場としては、これらニーズが続く限り、宮城県の養豚振興のため関係者と力を合わせ、出荷・配布や生産性向上の研究に励んでまいります。

(種豚家きん部 国井 洋)



のぼり作成



みやぎまるごとフェスティバル
H24.10.14



養豚研究会研究集会
テーマ「豚肉の美味しさを考えよう」
H25.3.6



つけだれの開発



県内3銘柄の試食用の肉

〈衛生便り〉

口蹄疫の防疫対策について

東部地方振興事務所畜産振興部

平成22年4月に宮崎県で発生した口蹄疫は、我が国の畜産にとってかつてないほど大きな被害をもたらしました。同年8月の終息以降、日本国内においては口蹄疫の発生は確認されていません。しかし、近隣諸国（中国、台湾、ロシア等）では依然として発生しており、いつ国内に侵入してもおかしくない状況が続いています。

口蹄疫は、牛や豚などにかかる感染力が非常に強いウイルス性伝染病で、まず発熱や食欲不振が見られ、次によだれを流し（図1）、口や蹄、乳房に水ぶくれ（図2）ができるのが特徴です。

畜産農家の方々は、引き続き、下記の飼養衛生管理基準の遵守や早期発見・通報のための監視の強化に万全を期していただくようお願いします。

- 1 外部からの人や車をできる限り農場に入れないようにする。
- 2 畜産関係者をはじめ、農場に立ち寄る車や持ち込む物は必ず消毒する。
- 3 自分の農場に入る際も、靴や持ち込む物の消毒を徹底する。
- 4 口蹄疫が発生している国への渡航は、できる限り控える。
- 5 口蹄疫を広げないためには、早期発見がとても大切です。毎日、必ず家畜を観察して、口蹄疫の特定症状（①泡沫性のよだれ、②舌の水ほう・びらん）を発見した時には、すぐに獣医師や家畜保健衛生所に連絡する。

本県では、獣医師・畜産関係機関と連携しながら、畜産農家に対して口蹄疫に関する情報提供や衛生対策の指導に努めているところです。また、今後万が一、口蹄疫が侵入した場合に迅速な初動対応を取るため、県内での発生を想定した防疫演習を実施するなど関係機関との連携をより緊密にした防疫体制の強化を図っています。

引き続き、生産者及び関係機関が一丸となり、本県の国内への侵入防止のために万全の防疫対策に努めていきたいと思います。（畜産振興班 三浦達弥）



◀図1 多量のよだれ



◀図2 口内の水ぶくれ・びらん

（写真：宮崎県提供）

〈農業大学校生の抱負〉

将来の目標

宮城県農業大学校2学年
畜産学部 石川 貴大



私の家では現在、黒毛和種の肥育牛を約50頭飼育しています。また稲作部門は8haとなっており、父を中心として経営しています。私は将来そんな父の後を継ぎたいと考えています。しかし、最初から家を継いで農

業をやっていこうと考えていたわけではありません。

私は中学生の頃、将来の目標も決まっておらず普通高校に進学しました。高校2年生に進級しても将来、やりたい仕事や目標が定まらず悩んでいました。そんな2年生も終わりに近づき進路をそろそろ決めなければいけない時期となった時、東日本大震災が起きました。地震で停電となり畜舎のポンプも作動せず、電気が復旧するまで毎日父親と2人で水を手作業でやっていました。この時の父親のことはよく覚えています。普段からたまに牛の飼養管理を手伝っていましたが、この時初めて父親の仕事に対する真剣さが伝わってきました。そしてこれがきっかけで私は家を継ぎ農業をやっていこうと決めました。

そんな私の将来の目標は、父の後を継いで経営を拡大することです。しかし言うのは簡単ですが、実際に達成することはとても困難なことです。この目標を実現させるには現在の農業、特に畜産についての知識が不可欠です。しかし、高校の頃の自分にはその必要な知識がほとんどない状態でした。そこで私は農業大学校への進学を決めました。

現在、農業大学校で畜産の勉強に励んでいます。周りはほとんど農業系の高校から来た生徒も多いです。その中で自分の力不足を感じることも多々あります。実際実習などで他の人に迷惑をかけることもあります。ですが少しずつ自分が成長していることも実感しています。

農業大学校に入学して1年がたちます。2年生では岩出山教場での講義・実習が中心となるので、畜産についてより実践的なことを学ぶことができます。きっと困難なことや大変なことも多くあるでしょうが、「父の跡を継ぎ家の経営を拡大したい」この目標に向けてこれからも頑張っていきたいです。

〈人の動き〉

宮城県

退職 (3月31日付)

畜産試験場技術参事兼場長
 畜産試験場次長 (総括担当兼班長)
 仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長)
 畜産試験場技師

大 久 昇 悦
 小 山 正 義
 青 木 隆 英
 伊 藤 智

平成25年4月1日付

新	旧	氏 名
農林水産部畜産課監視伝染病対策専門監	東部地方振興事務所畜産振興部長	大場 実
農林水産部畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当)	北部家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当)	柴崎 卓也
農林水産部畜産課技術補佐 (班長)	石巻農業改良普及センター技術次長	菊地 武
農林水産部畜産課技術補佐 (班長)	大河原家畜保健衛生所技術次長	嶋田 俊治
農林水産部畜産課技術補佐 (班長)	東部地方振興事務所畜産振興部技術次長 (班長)	高橋 伸和
農林水産部畜産課主幹 (副班長)	出納局契約課主幹	高橋 京子
農林水産部畜産課技術主幹	大河原家畜保健衛生所技術主幹	熊谷 弘明
農林水産部畜産課技師	畜産試験場技師	阿部 玲佳
農林水産部畜産課主事	登米市役所	大久保潤一
大河原家畜保健衛生所所長	農林水産部畜産課監視伝染病対策専門監	松田 悦子
大河原家畜保健衛生所主任主査	農林水産部農業振興課主任主査	小林 宏子
大河原家畜保健衛生所技師	(新規採用)	小林 真言
仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長)	北部家畜保健衛生所技術次長 (班長)	西川 彰子
仙台家畜保健衛生所主任主査	東部家畜保健衛生所主任主査	網代 隆
仙台家畜保健衛生所技師	北部家畜保健衛生所技師	平内 瑞希
北部家畜保健衛生所次長 (総括担当)	農林水産部畜産課技術補佐 (班長)	齋藤 裕
北部家畜保健衛生所技術次長 (班長)	大崎農業改良普及センター技術次長 (班長)	村上 哲也
北部家畜保健衛生所主任主査	東部家畜保健衛生所主任主査	大沼 篤
北部家畜保健衛生所技師	仙台家畜保健衛生所技師	高野 泰司
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技師	(新規採用)	鈴木 一茂
東部家畜保健衛生所技術主査	農林水産部畜産課技術主査	佐藤 元道
東部家畜保健衛生所技術主査	北部家畜保健衛生所技術主査	真鍋 智
東部家畜保健衛生所技師	北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技師	千葉 将彦
東部地方振興事務所畜産振興部長	農林水産部畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当)	伊藤 敦
東部地方振興事務所畜産振興部技術次長 (班長)	仙台家畜保健衛生所技術主幹	大越 啓司
畜産試験場技術参事兼場長	大河原家畜保健衛生所所長	渡部 正樹
畜産試験場次長 (総括担当兼班長)	土木部都市計画課課長補佐 (班長)	大場 淳一
畜産試験場主幹	北部地方振興事務所栗原地域事務所総務部主幹	小松 澄江
畜産試験場主任研究員	北部家畜保健衛生所主任主査	遠藤 潤
畜産試験場技師	登米農業改良普及センター技師	杉本 達郎
畜産試験場技師	(新規採用)	菅野 宏美
大河原農業改良普及センター技術次長	畜産試験場上席主任研究員	荒木 利幸
大崎農業改良普及センター技術次長 (班長)	農林水産部畜産課技術補佐 (班長)	及川 克徳
登米農業改良普及センター技師	農林水産部畜産課技師	四ノ宮 徹
本吉農業改良普及センター次長 (総括担当)	農林水産部畜産課技術補佐 (班長)	曾根 文浩
土木部防災砂防課課長補佐 (班長)	農林水産部畜産課主幹	村上 正勝
保健福祉部医療整備課主任主査	畜産試験場主査	菅原 純子

全農みやぎ

平成25年4月1日付

新	旧	氏 名
管理部付JA全農北日本くみあい飼料株式会社 出向	畜産部生産販売課長	熊谷 誠毅
管理部付JA全農北日本くみあい飼料株式会社 出向	畜産部生産指導課長	佐々木重善
管理部付JA全農北日本くみあい飼料株式会社 出向	畜産部市場流通課	佐藤 潤
畜産部次長兼事業管理課長	畜産部次長	佐々木 仁
畜産部事業管理課	畜産部生産指導課	伊藤千恵子
畜産部生産販売課長	畜産部事業管理課長	熱海 伸浩
畜産部生産販売課	畜産部生産販売課 仙台食肉事務所長	高川 信幸
畜産部生産販売課	畜産部生産販売課 東京駐在	熱海 幾哉
畜産部生産販売課 東京駐在	畜産部生産販売課	赤田 健太
畜産部生産販売課 仙台食肉事務所長	畜産部生産販売課	畑山 和夫
畜産部生産指導課長	管理部付北日本くみあい飼料株式会社 出向	上野 新英
畜産部生産指導課	畜産部事業管理課	荒川 まゆみ
畜産部市場流通課	管理部付北日本くみあい飼料株式会社 出向	半田 勝則
畜産部市場流通課	管理部付北日本くみあい飼料株式会社 出向	千葉 洋子
畜産部生産指導課	(新規採用)	澤口 直浩
畜産部生産指導課	(新規採用)	山下 幸佑

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト (<http://www.keiba.go.jp/>) でもご覧になれます。

(担当: 審査部登録課 電話 0 3 - 3 5 8 3 - 2 1 4 2)

NOSAI宮城

退職（平成25年 3 月31日付）

畜産部長
県北家畜診療センター次長
県北家畜診療センター嘱託職員

武蔵 千
蔵野 葉
昌芳 正
文男 寛

平成25年4月 1 日付

新	旧	氏 名
家畜部長	家畜部次長	大石 武志
家畜部家畜課長補佐	県南家畜診療センター診療課長補佐	高橋 孝幸
家畜部家畜課長補佐	家畜部家畜課診療指導係長	金山澤幸雄
県南家畜診療センター次長兼損防課長	県南家畜診療センター損防課長	熊谷 克
県北家畜診療センター次長	家畜診療研究所次長兼診療指導課長兼損防指導課長	一條 俊浩
家畜診療研究所研修所次長兼診療指導課長兼損防指導課長	中央家畜診療センター診療課長	吉日本勝策
中央家畜診療センター診療課長	県北家畜診療センター損防課長補佐	我妻洋太郎
県北家畜診療センター診療課長	中央家畜診療センター診療課長補佐	木村 喜正
県北家畜診療センター庶務課長	県北家畜診療センター診療課長	小野 秀弥
家畜診療研究所損防指導課技術主査	中央家畜診療センター損防課技術主査	松田 敬一
中央家畜診療センター診療課技師	県北家畜診療センター診療課技師	内海 博文
中央家畜診療センター損防課技師	中央家畜診療センター診療課技師	福田 純子
中央家畜診療センター損防課技師	中央家畜診療センター診療課技師	石井 豊希
県北家畜診療センター診療課技師	家畜診療研究所診療指導課技師	菊池 朋子
中央家畜診療センター庶務課書記	県北家畜診療センター庶務課書記	高橋 芽衣
県北家畜診療センター庶務課書記	中央家畜診療センター庶務課書記	遠藤 亜希
中央家畜診療センター嘱託職員	(採用)	武蔵 昌文

公益社団法人 みやぎ農業振興公社

退職（平成25年 3 月31日付）

常務理事
復興支援・基盤整備部長
畜産振興部牡鹿牧場参事兼場長
畜産振興部岩出山牧場上席主任主査
畜産振興部牡鹿牧場技師
畜産振興部牡鹿牧場主任主査

金渡 成 顯 悟
藤 辺 本 長 武
高 橋 田 秀
須 藤 芳 聡
斎 斎 樹

平成25年 4 月 1 日付

新	旧	氏 名
常務理事兼総務企画部長	参与兼総務企画部長	高田 廣
常務理事兼畜産振興部長	参与兼畜産振興部長	佐藤 富雄
担い手育成部担当参与（担い手育成部担当）	担い手育成部参与兼部長	渡辺 芳則
担い手育成部部長心得	総務企画部総務班次長兼班長	庄子 喜幸
畜産振興部・畜産振興班総括次長兼班長	復興支援・基盤整備部事業所長	岡本 俊彦
復興支援・基盤整備部事業所長	畜産振興部畜産振興班長	大沼 吉満
畜産振興部岩出山牧場副場長	畜産振興部白石牧場副場長	庄司 功
畜産振興部白石牧場副場長	畜産振興部岩出山牧場副場長	遠藤 康彦
畜産振興部白石牧場技師	白石牧場技師	関口 直樹
畜産振興部白石牧場技師	白石牧場技師	夏目 貴英
畜産振興部畜産振興班技師	(新規採用)	庄子 修平
復興支援・基盤整備部参与兼部長	復興支援・基盤整備部長（退職）	渡辺 武
担い手育成部担い手育成班企画指導員	畜産振興部牡鹿牧場参事兼場長（退職）	藤本 長之

みやぎの酪農

平成25年 2 月 1 日付

新	旧	氏 名
総務課長	仙南支所総務係係長兼指導係	日野 裕治
販売課長	販売課長代理	村田 孝志
仙南支所長兼総務係係長	仙南支所長	我妻 久義
仙南支所総務係	山麓事業所（仙南集乳所）販売係	細谷 信宏

一般社団法人 宮城県畜産協会

退任（3 月31日付）
就任（4 月 1 日付）
退職（平成25年 3 月31日付）

常務理事
常務理事
参事兼家畜改良課長

秀 島 理 明
浅 野 安 夫
野 安 夫

平成25年4月 1 日付

新	旧	氏 名
参事兼家畜改良課長	(採用)	大久 昇悦
総務課長	中央事業所長	半田 好昭
価格安定課長	総務課長	島貫 稔
中央事業所長	価格安定課長	大宮 勝廣
価格安定課主査	家畜衛生課主査	猪狩 節子
家畜衛生課主査	価格安定課主査	三品 清美
家畜改良課技術主査	経営支援課技師	庄子 清文
価格安定課技術主査	価格安定課技師	亀井 和也
家畜改良課主事	仙南事業所主事	渡邊 恵子
経営支援課技師	家畜改良課技師	柴田耕太郎